

第1回 いじめ未然防止・対策委員会 議事録

日時：令和4年6月23日（木） 15：50～17：50

場所：会議室

出席：田中 敦（弁護士） 西尾 春香（臨床心理士）書面回答
田中真奈美（地域代表） 三嶋 恵子（保護者代表）
伊左治錦司（校長）【委員長】 坂本 康晴（教頭）【副委員長】
安田 貴彦（生徒指導主事） 小島 貴宏（生徒支援副部長）
近藤 浩美（養護教諭） 牛丸美津子（1年副主任）
竹中 俊文（2年副主任） 土本 公道（3年副主任）

1 はじめに

（1）委員長挨拶（学校長）

SNSに加えて新型コロナにより、生徒の関係がより複雑になった。日本と欧米でのいじめの形態はちがう。常に「いじめは起きるもの」として考えることが必要である。

（2）いじめ未然防止・対策委員委嘱

委員長より、いじめ未然防止・対策委員として全出席者に委嘱された。

（3）自己紹介

自己紹介の中で、委員よりネットでのいじめはなかなか顕在化しにくい。どうやって把握し、解決していくのか難しいし、心配であるとの意見があった。

2 協議

（1）組織の説明

ア 「いじめ未然防止・対策委員会」設置要綱について説明を行った。

イ 「いじめ未然防止等対策第三者委員会」設置運営要綱について説明を行った。

（2）取組の概要の説明

ア 令和4年度いじめ防止基本方針の確認をし、了承を得た。

イ 学校いじめ防止プログラムに、毎月心のアンケートを実施していることと2月にピクニックシャッターを設け、いじめに関する啓発活動を追加した。

ウ いじめ問題発生時の対応等、学校での対応を具体的に行った

（3）昨年度報告

昨年度6件認知し、解消に向けて取り組んだことについて報告した。

(4) 今年度報告

各学年や担当から今年度の生徒の様子を含めて、報告があった。

- ・いまのところ3件認知し、解消に向けて取り組んでいる。
- ・全体的には元気な生徒が多いが、逆に内向的な生徒も多くおり、乖離が激しい。「いじり・からかい」を訴える生徒が常にいる。個別に話を聞き、最終的には学年集会まで行って学年全体に問題としてとらえさせた。2名の生徒が不登校気味で、SCを利用している。
- ・昨年度は友人関係のトラブルが多くあった。学年としてはおとなしい生徒が多い分、見えないストレスを抱えている生徒も多い。言葉の使い方、友人関係が崩れることがよくある。
- ・友人関係で、クラス替えを機に離れて行ってしまった生徒がおり、悩み、話を聞いた。さみしいと感じる生徒もまだいる。細かく話を聞きながら、見守っていく必要がある。「自分を大切にし、周りも大切にすること」ということはどういうことか常に考えさせたい。
- ・心のアンケートより、SCを希望する生徒が多くなってきた。7月にはスペシャリストサポートも活用し、生徒・保護者に寄り添った対応をしていきたい。

(5) ご意見

- ・何をもって「重大事態」ととらえるのか。
→学校は、生徒保護者から申し立てがあったときは、「常に重大事態になる可能性がある」ととらえて対応している。
- ・この会議はいったい何のためにあるのか、いまいち具体性がない。もっと過去の事例を提示していただき、それに対しての問題点や評価できる点を検証したい。次回の会議はそれを期待した。
→昨年度末に詳細を検証していただいた。今年度も2月に予定されている会議にて検証していくので、その場でお願いしたい。
- ・アンケートをこまめにやっていただき、また誤回答も含め、細かく検証し、対応していただいている姿勢に感謝したい。園児もそうであるが、コミュニケーション能力の不足や自己肯定感の低さを痛感している。

3 その他

- ・第2回いじめ未然防止・対策委員会について
期日 令和5年2月13日(月)
場所 会議室

4 委員長挨拶

弁護士の話にもあったように、この会議を意味のあるものにしていかなければいけない。次回は年度末であるが、今年度の具体的な事例を提示できるとよい。